

将来像および目標設定の考え方案

**行政としての課題**

**国の動向** 注1  
 ○(従来の緑の基本計画の指標の課題として、)緑被率は緑の量の増加が緑の機能増大に単純につながらない、一人あたりの公園面積は、人口が減少すれば自然に増えるため、**指標として限界**  
 ○環境改善とQOL(生活の質)の向上に貢献するみどりを増やすための計画にしていなければならない ①

**現行計画の課題**  
 ○施策の柱や個別事業と大目標の関係がわかりにくい **目標**  
 ○目標値が全区的数値であり、区民生活の何が変わるのかは表現できていない **目標**

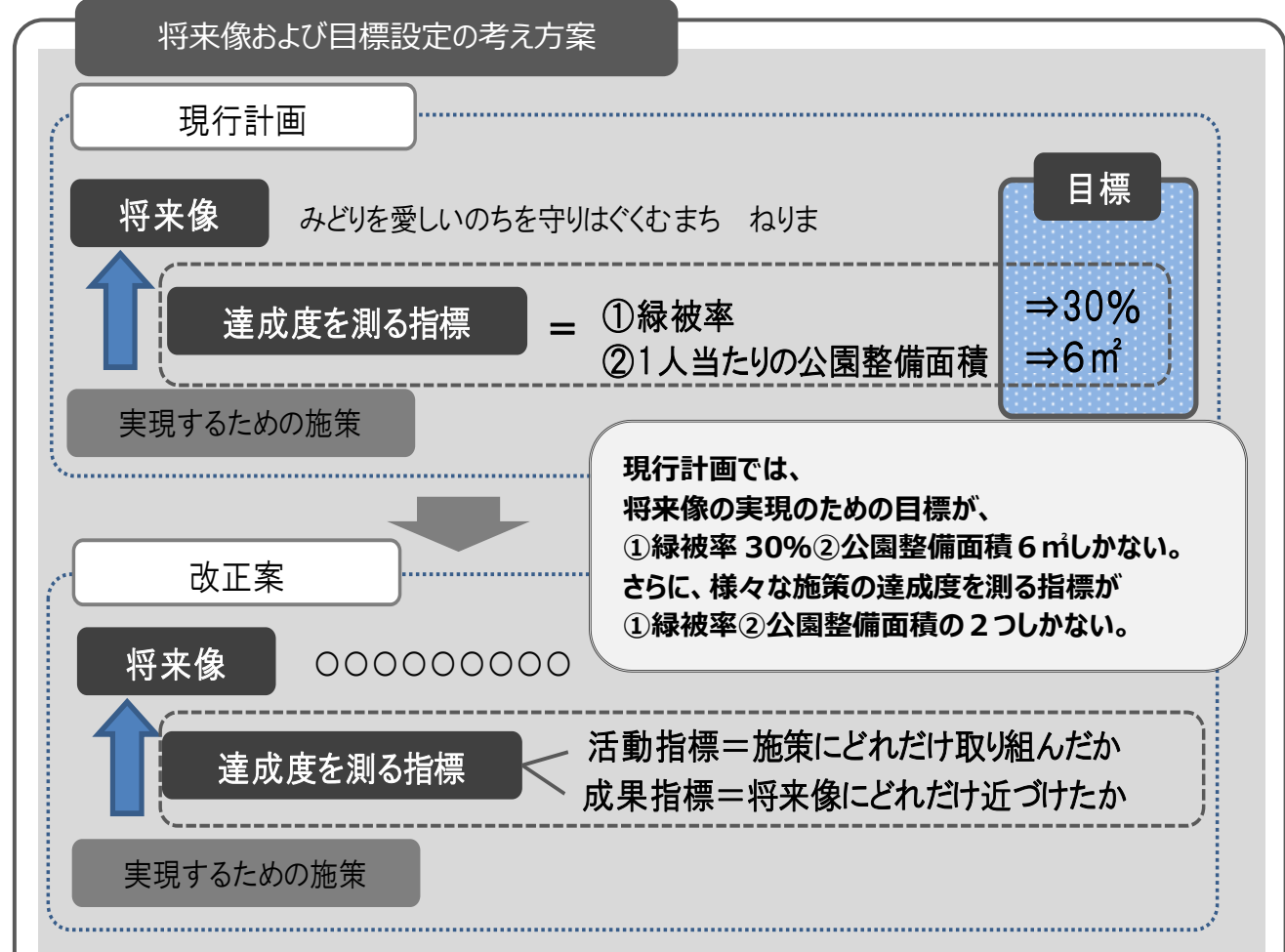
**練馬区としての視点**  
 ○緑被率 30%という目標は、財政的に困難である **目標**  
 ○広域的な視点から都心部と山間部をつなぐ位置にある ①  
 ○公共のみどりは恒常的に維持管理費がかかる

**緑化委員会からの意見**

○「みどりがあって良かった、練馬に住んで良かった」と思えるよう、「みどり」と「暮らし、コミュニティ」が結びついていることが大切 ①  
 ○緑被率 30%は達成できなくても、少しでもみどりを増やしていくべき ①  
 ○みどりの機能が、練馬らしく発揮されている状態になっていることが大切 ①  
 ○地域別の違いを踏まえ、公園を含めたみどり空間を考えていくべき ①  
 ○公園緑地だけでなく、道路、河川、民有地も積極的に取り組むべき ①  
 ○自然が好きという人だけでなく、一般の方がみどりに親しめる施策が進むとよい ②④  
 ○みどり保全是活用がキー ②  
 ○区のみどりの多くを占める民有のみどりへの取組が大事 ③  
 ○既存の屋敷林をある程度残すような新しい開発を行政が支援する仕組みが必要 ③  
 ○みどりで困っている人と活動したい人を繋げる仕組みが必要 ③  
 ○制度を作った後の発信手段や葉っぱい基金の活用に関するPR等の工夫が必要 ④

**区民意見 (区政モニター、区民意識意向調査、区民会議)**

○緑被率ではなく、将来の人口推計も踏まえ、重要なみどりや必要なみどりを明らかにすべき ①  
 ○みどりの効果を踏まえ、必要なみどりを確保するなどしてほしい ①  
 ○区民みんながみどりを身近に感じられるような暮らしが大切 ②  
 ○地域ごとに必要なみどりは異なる。区内一律の目標だけでない方がいい **目標**  
 ○地域のみどりは地域で育てる。 ③  
 ○小さいときから、みどりに興味を持たせ、体験させることが大切 ②③  
 ○区民は活用できるみどりを望んでおり、民有地のみどりも係わりを持つ機会を増やすことで大切なみどりとなりうる ③  
 ○みどりの制度の認知度を向上させる取組が必要 ④



**将来像の案**

① 「区民が大切にしたいみどり」が保全あるいは創出されており、「みどりの多機能性」が効果的に発揮されている環境が構築され、区民のQOL(生活の質)が向上しています  
 ② 幅広い世代や個々のライフスタイルに応じて、多くの区民が「自分事」として、主体的にみどりと関わる暮らしを送っています  
 ③ みどりを介して人々がつながり、協働することで、地域コミュニティの醸成、子育ての場としての活用、都市防災機能の強化などが進み、区民が快適に、安心して暮らせるまちになっています  
 ④ 練馬のみどりの魅力やみどりを活用した暮らしの情報が、区民を含む多くの人々に届き、誰もがみどりの豊かさを自慢できるまちになっています

**目標設定の考え方案**

○現行計画の目標である「緑被率」や「1人当たりの公園整備面積」だけではなく、みどりの機能を踏まえた新しい質的、量的な指標を検討したい。

注1)「これからの社会を支える都市緑地計画の展望 人口減少や都市の縮退等に対応した緑の基本計画の方法論に関する研究報告書」(平成28年6月、国土技術政策総合研究所)より